

平成26年度病院医学教育研究助成成果報告書

報告年月日：平成27年 3月 30日

研究・研修課題名	免疫抑制・化学療法により発症するB型肝炎を予防するための電子カルテ上アラーム表示の作成およびその効果検証
研究・研修組織名（所属）	B型肝炎ウイルスの再活性化予防委員会
研究・研修責任者名（所属）	佐藤秀一
共同研究・研修者名（所属）	近藤雅文

目的及び方法、成果の内容

①目 的

免疫抑制・化学療法により発症する B 型肝炎ウイルス（以下 HBV）の再活性化は劇症化すると救命は極めて困難で、本院でも死亡例が 1 例検知されている。再活性化を起こさせない予防策が記載されたガイドラインが日本肝臓学会において作成されているが、免疫抑制・化学療法を施行する診療科を様々で、ガイドラインの遂行が促進されないことから、遂行する為に限りなく網羅的に周知する仕組みを構築し、ウイルス再活性化の予防を図る必要がある。

②方 法

東芝医療情報システムズの電子カルテシステム上で、癌化学療法レジメンオーダー登録時に、ガイドラインで定めてある HBV 検査がなされていない場合、その検査を行うようにアラームが出るようにした。また、レジメン登録時 B 型肝炎の必要な検査が既に行われている場合に、検査結果に応じて、HBV DNA のモニタリングや、肝臓内科への紹介といったアラームも出るようにした。アラーム機能システム導入前後で化学療法レジメンオーダー時の HBV 検査オーダー状況を比較検討した。

③成 果

このシステムを院内外に発信することで、院内に B 型肝炎再活性化の危険性を周知することができた。また、多くの新聞・ニュースにも取り上げられ、本院の医療安全レベルの向上を院外に広めることができた。今年度のテスト運用では、アラーム機能で開始したが、B 型肝炎に関する必要な検査オーダー未施行で、レジメン登録症例が出ていることから、新年度からの運用では上記オーダーがないとレジメン登録できないようにした。本研究は 2015 年秋に東京で開催される JDDW2015 に演題を提出した。